

平成23年度 指定管理者施設管理評価シート

部 福祉部 課 障害福祉課

<b>施設名称</b>		〔30〕 東京都台東区身体障害者生活ホームフロム千束				
<b>指定管理者の名称</b>		社会福祉法人台東つばさ福祉会		<b>指定期間</b>	H22. 4. 1 ～ H27. 3. 31	
<b>1. 指定管理者の概要</b>						
(1) 業務内容	障害者福祉施設（身体障害者通所授産施設 1、身体障害者生活ホーム 1、知的障害者グループホーム 7）の運営、就労支援事業、障害児放課後対策事業					
(2) 類似施設の管理実績	同上					
(3) 経営状況	〔社会福祉法人会計〕 歳入202,406,686円 歳出203,359,326円 収支差額952,640円 〔授産施設特別会計〕 歳入116,585,446円 歳出115,552,871円 収支差額1,032,575円 〔公益事業特別会計〕 歳入 70,796,513円 歳出 70,796,513円 収支差額 0円					
<b>2. 施設の概要</b>						
(1) 所在地	台東区千束 3-28-13					
(2) 設置目的	心身障害者の福祉の増進を図り、地域社会での自立生活を促進するため					
(3) 利用者	台東区内に住所を有する身体障害者					
(4) 開館日・時間	通年・24時間					
(5) 規模	千束保健福祉センター内 RC造 地上7階地下2階のうち2階 延6,733.87㎡のうち2階765.53㎡ 居室11、介護人室2、食堂、浴室、洗濯室、トイレ					
(6) 人員体制	7名 【内訳】 施設長 1（兼務）、生活支援員 常勤4 非常勤2					
<b>3. 事業（サービス提供）の概要</b>						
(1) 委託事業	①入居事業 ②自立生活体験事業 一定期間（2～3か月間）の入居生活を体験してもらう事業（22年度は改修工事に伴い、1年間休止）					
(2) 自主事業						
<b>4. 予算決算の推移</b>						
		<b>18年度</b>	<b>19年度</b>	<b>20年度</b>	<b>21年度</b>	<b>22年度</b>
予算	委託料	31,383,000	35,180,000	39,168,000	41,202,000	10,843,000
	料金収入等	2,920,000	2,253,000	2,253,000	2,253,000	420,000
	管理経費	34,303,000	37,433,000	41,421,000	43,455,000	11,263,000
決算	委託料	30,762,270	33,493,162	35,200,511	40,099,197	10,843,000
	料金収入等	2,520,975	2,421,429	2,362,316	2,418,800	452,000
	管理経費	33,283,245	35,914,591	37,562,827	42,517,997	11,295,000
	収支	0	0	0	0	0
<b>5. 施設の稼働状況等（活動指標）</b>						
<b>指標名称</b>		<b>単位</b>	<b>19年度</b>	<b>20年度</b>	<b>21年度</b>	<b>22年度</b>
年間開所日数		日	365	365	365	91
<b>6. 成果指標</b>						
<b>指標名称</b>		<b>単位</b>	<b>目標値 (24年度)</b>	<b>20年度</b>	<b>21年度</b>	<b>22年度</b>
年間延月単位利用者数		人	132	84	84	15
稼働率		%	100.0	100.0	100.0	71.0

7. 平成22年度評価結果に対する現在までの取組み				
22年度、施設の改修工事を行い、定員を7名から11名へ増員した。台東つばさ福祉会と連携し、利用者の調整やサービス向上について協働して取り組んできた。				
8. 評価項目				
		3：協定等の水準を上回っている。 2：協定等の水準どおりである。 1：おおむね協定等の水準だが課題がある。	0：協定等の水準を下回っている。 -：評価対象外項目。	
評価の観点	評価項目			
(1) 事業の運営 平均 [2.0]	(a) 施設の目的達成 (b) サービス水準 (c) 職員配置 (d) 職員研修 (e) 案内・接遇	[2] [2] [2] [2] [2]	(f) 開館時間等の遵守 (g) 自主事業の成果 (h) 個人情報保護 (i) 緊急時対応マニュアル (j) 警備・防犯体制	[2] [-] [2] [2] [2]
(2) 施設の維持管理 平均 [2.0]	(a) 建物保守・設備機器点検 (b) 備品の管理 (c) 清掃・衛生管理 (d) 施設の修繕	[-] [2] [2] [2]	(e) 危険箇所等の確認 (f) 管理記録の作成・保存 (g) 業務委託の事前承認 (h) 省エネ・省資源・環境配慮	[2] [2] [2] [2]
(3) 利用者の満足度 平均 [2.0]	(a) 利用者・第三者機関の評価 (b) 苦情・要望への対応と報告 (c) 利用者数の目標達成	[2] [2] [2]	(d) 利用しやすい環境整備 (e) 関係団体・地域との関わり	[2] [2]
(4) 歳入歳出 平均 [2.0]	(a) 適正な予算執行 (b) 経費削減のための取組み	[2] [2]	(c) 収支計画の達成 (d) 利用料等の徴収・管理	[2] [2]
9. 評価				
S（水準以上）： 協定等の水準を満たし、一部に水準を上回る内容がある。 A（適正）： 協定等の水準を満たす管理が行われている。 B（一部課題あり）： 協定等の水準を満たしているが、一部に課題がある。 C（課題あり）： 協定等の水準を満たしているが、課題が複数ある。 D（水準未滿）： 協定等の水準を満たしていない。				
評価の観点	評価	説明		
(1) 事業の運営	A	入居事業(定住)及び体験入居の稼働率は100%であり、概ね良好に行われている。		
(2) 施設の維持管理	A	清掃は、日常清掃を実施し、施設設備は、法定点検と日常点検を実施し、備品・物品の管理は、備品台帳に登録して、管理を行っており、状況に変化があれば報告する体制をとっているため、概ね適切になされている。		
(3) 利用者の満足度	A	利用者とのミーティングを定期的に行い、要望等を聞く機会を設け、また、第三者委員の視察を実施するなど、利用者の声を施設運営に反映させる仕組みづくりに努めている。		
(4) 歳入歳出	A	今後はさらに歳入確保と経費の削減に努め、効率的な運営を目指す。		
10. 総合評価				
良好 妥当 要努力 要改善 不適				
妥当		平成22年度は、改修工事を実施し、その間、転居しながらも、混乱なく、利用者本位のサービスを提供し、関係団体とも連絡をとりながら地域福祉との担い手として運営をしてきている。		
11. 平成23年度評価結果に対する今後の対応				
今後は、社会福祉士及び介護福祉法の改正により認められた介護職員によるたんの吸引などの医療的ケアの実施に向けた環境整備として、介護職員の「喀痰吸引等研修」の受講などに努め、更なる改善を図っていく。				